第３回富山市上下水道事業経営審議会（R7.2.4）での主な発言内容

委 員	コメント等
会　長	（まとめ） ・委員の皆さんのご意見からは、料金改定には了解が得られておりました。 ・パターンとしては、パターン２では一部理解が得られましたが留保が付いていました。 ・よって、本審議ではパターン３（27.0%）の理解が一番得られていると思います。
Ａ委員	・今までの議論でもありました耐震化の前倒しにおいて必要である資金であり、市民にも新聞等でお知らせしてきていることと考えている。 ・提示された改定案には幅があったが、この中では、納得していただけるとしたら一番低いパターン３（27.0%）であると思うが、それでも高い改定率であると思う。今後どういうことをやっていくかとそれにはどれだけ費用が必要であるかを説明していくことが理解が得やすいと考える。
Ｂ委員	・４年間の算定期間で考えるならば、３パターンある中で、個人的にはこれまでの実績でいくとパターン２（40.1%）と思うが、P23の中核市等の改定間隔と改定率のグラフからは他の自治体とのバランスからパターン３（27.0%）となると思う。
Ｃ委員	・３パターンのそれぞれどのようなことができるのかを市民に提示することが必要ではないか。例えば、耐用年数40年を経過した水道管〇〇の距離をの更新をパターン１では5年でパタン２では10年でなど具体的にわかりやすく示すことが重要になってくる。 ・どれも根拠があり、いい面がある。そういう意味では、どのパターンもあると思う。
Ｄ委員	・今回は水道料金の話で、これに下水道も加わるので、消費者目線では大変厳しい。 ・４年間ということで、庶民の懐事情を考えるとパターン３（27.0%）で検討いただきたい。
Ｅ委員	・資金不足分Ⓐの内訳のNO.6の資料では収入は現実の数字と思える。また、支出は抑えようとする努力が見られる。企業債の支払利息が多いと思えるがどうか。 →[事務局] 建設の費用に対して現在企業債を85%の充当率としている。企業債残高が増えているが、減らすには内部留保資金を増やし、企業債の充当率を下げて、将来への負担軽減を図るよう次期ビジョンを考えていく必要がある。
Ｆ委員	・内部留保がどれくらい必要かを市民に説明していただくと良いと思う。 ・値上がりが市民に利益あることだと具体例を示し納得してもらうことが必要。
Ｇ委員	・各委員から話のあったように市民にはパターンごとによる違いを分かりやすく説明していく方が良い。 ・水道にも経費が掛かっているということは理解されてきていると思う。 ・デフレから急に物価が上がっている状況を考慮していただいて、大きな変化を避けていただきたい。
Ｈ委員	・市民感情としては、あげてほしくないのが当たり前だが、各委員から話のあったようにパターンごとによる違いを分かりやすく説明していく方が良い。 ・人口の減少がもっと大きくなっていくのではないかと思えるので、そういった点も考慮していただければと思う。
Ｉ オブザーバー	・企業債については、建設の事業費の85%を企業債で賄ってきていたことから、企業債残高が多くなっている。富山市は企業債を相当な努力をして返還をして徐々に減ってきている。 ・国の通知（R5.7.6）のとおり、富山市も資産維持費を見込んで料金改定をする必要がある。 ・第３次ビジョンを計画することから、今後の方向性も示していくとと思う。など
Ｊ オブザーバー	・この資料の考え方は、我々はわかるところもあるが、市民目線では分かりにくいところもあると思われるので、どういかに分かりやすくするかが重要。 ・パターンを決めて今後の説明の仕方を検討していただければと思う。